

博士前期課程（修士） / 共通科目 / 共通科目

科目コード：200011

# 臨床薬理学（大学院） Clinical Pharmacology

担当教員	平居貴生、益岡尚由、安本和生、陳 文筆、小倉慶雄、安井正英、阪上 学、野村一人、岩佐和夫、臺美佐子				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義
必修・選択	選択	時間数	30		
Keywords					
学習目的・目標	<p>薬物による生体制御の基礎を理解する。</p> <p>薬物療法が必要な患者に対し、疾病の治療・生活力回復の促進、対象者自身の服薬管理能力向上のための看護、薬剤使用の判断などを実践する能力を習得することを目標とする。また、障害機能別の薬物療法を適切に支援するために必要な薬理・薬剤の知識を学ぶ。</p>				

## 授業計画・内容

回	内容	授業方法	担当
1	総論①：薬物の作用機序	講義	平居貴生
2	総論②：薬物の体内動態 薬物・薬剤の適正処方と安全管理	講義	平居貴生
3	総論③：医薬品開発と新薬の情報収集 漢方薬	講義	平居貴生
4	中枢神経薬理（理論）	講義	平居貴生
5	感染症、呼吸器系の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	平居貴生
6	腫瘍の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	平居貴生
7	臨床における腫瘍に対する薬剤の使用法とその考え方	講義	安本和生
8	消化器系の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	益岡尚由
9	感染症、呼吸器系疾患に対する薬剤の使用法とその考え方	講義	安井正英
10	臨床における中枢神経系の病態に対する薬剤の使用法とその考え方	講義	岩佐和夫
11	妊娠期・授乳期の臨床における薬剤の使用法とその考え方	講義	野村一人
12	消化器系疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 消化性潰瘍、過敏性腸症候群など	講義	陳 文筆
13	内分泌、代謝疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 糖尿病、痛風など	講義	小倉慶雄
14	循環器作用薬の理論と臨床	講義	阪上 学
15	講義内容の看護への活用・展開についての討議	講義・討論	臺美佐子

教科書	授業の中で提示する
参考図書等	授業の中で提示する
評価指標	レポート80%、毎回のコメントシート20%
関連科目	
教員から学生へのメッセージ	科学的な考え方を理解し、今後の専門看護に大いに役立ててください。